

にほんやなぎ ひなた
青森県立八戸東高等学校 二本柳 ひなた



私は1月27日から2月7日の計12日間にわたる第27回高校生による海外エネルギー事情研修会に参加しました。研修全体を通してエネルギーの知識を蓄えられただけでなく、海外の方とのコミュニケーションを通じて自分自身が成長して帰ってこれることができたと思います。

むつ市で行われた第1回事前研修会では、私自身のエネルギーに関する知識が乏しかったため説明を聞いても理解することができず、初めて顔を合わせた仲間が説明を聞いて質問をしている姿に焦りを感じました。そのため、みんなに追いつこうと施設見学をした際には情報集めに必死でした。研修終了後も第2回事前研修会に向けて、学校の先生からエネルギーの課題について教えていただいたり、たくさんの資料を読んで原子力発電について学びました。その成果もあってか、第2回事前研修会では原子力発電についてうまくプレゼンをすることができたので自分の考えに自信をもつことができました。だんだんと研修本番が近づくにつれて、青森県の代表として海外に行くという実感が高まってきました。

日本はスウェーデンやフランスとは違って電力を主に火力発電で賄っています。世界的に化石燃料の資源が乏しくなっていく中、資源を輸入に頼りっぱなしの日本はこのまま火力発電で電力を賄い続けるべきなのでしょうか。一方、原子力発電の利用割合が高いスウェーデンやフランスはどのような取り組みをしているのでしょうか。それらのことを確認するために2つの施設を見学してきました。

スウェーデンにある「フォシュマルク中・低レベル放射性廃棄物貯蔵所」を訪れて、私が特に印象に残ったのは、現地の人の中の80%は貯蔵施設を作ることに賛成をしていたということです。その話を聞いたとき、私は真っ先に日本との違いを痛感しました。日本人であれば、リスクを考慮して家の近くに原子力関連施設を建設することに反対する人が大勢いると思います。ですが、スウェーデンの人々は原子力が彼らにとって身近なものであり、SKB社が長い年月をかけて信頼関係を構築していたことによって、建設に真摯に向き合うことができていたのだと知り、日本も政府や建設業者が国民との高い信頼を築き、国民も他人事と捉えず自分事と捉える努力をすべきだと思いました。

フランスにある「ラ・アーク再処理工場」の見学では使用済み燃料が世界中からこの施設に運ばれてくるため、そこまでの交通手段として電車や船、トラックを使っていることに衝撃を受けました。使用済み燃料を運ぶのには、時間がかかる上に輸送中のリスクを伴います。そのため、オラノ社では、トラックで運ぶ際に周りに警備をつけながら2時間かけてゆっくり運ぶそうです。また、万が一のリスクを考慮して落下や火事、水没テストに合格したうえでの安全な輸送を心掛けているそうです。一般に立ち入ることのできない場所での貴重な見学は、印象深く緊張感のあるものとなりました。

私たちはスウェーデンにある「ヴァッテンフォール高校」とフランスにある「グリニャール高校」で現地高校生とのエネルギーについてのディスカッションや文化交流をしてきました。ヴァッテンフォール高校では緊張のあまり話すことにも消極的でしたが、自分たちのプレゼンを終えた後は、勇気を振り絞って積極的に話しかけたり、文化交流を楽しむことができました。時間の都合上、ディスカッションを行うことができませんでしたが、スウェーデンの高校生のプレゼンを聞いて知識をたくさん持っているということに驚きました。最後に行った文化交流では習字を体験してもらったり、日本のお菓子を食べてもらったりと初めての経験に笑顔を見せてくれたのがとても嬉しかったです。ですが、英語でうまく会話をする事ができず悔しかったのをすごく覚えています。そのため、フランスの高校では流暢に話すことができるよう自分から話題提示をして、一生懸命話しかけました。その結果、スムーズに会話をする事ができ、英語での会話がこんなに楽しいんだということに気づかされました。現地高校生とのディスカッションはとても有意義な時間となりました。

現地の高校生にとって「電気＝原子力」という印象が強いため、どうして原子力についてそんなに詳しいのか、尋ねてみたところ、物理の授業の中で原子力について学ぶ機会があり、小学生という幼い年齢のころからエネルギーについての勉強を学校で行っていたそうです。日本との違いを目の当たりにし、改めて日本人はもっとエネルギーについて興味を持つべきだと感じました。

初めてのヨーロッパは文化も建物も食べものも何もかもが日本と違う素敵な魅力があり、見学も楽しむことができました。特に印象に残ったのはモンサンミッシェルです。一度は訪れてみたいと思っていたところに行くことができ、とても充実した一日を過ごすことができました。建物の上から眺めた広大な景色は一生の宝物になると思います。また、エッフェル塔での写真撮影も楽しかったです。みんなとジャンプして写真を撮ったり、大人の方々がはしゃぐ姿をみんなで見て笑いあったのはとても印象に残っています。ほかにも、みんなでショッピングモールに行って買い物をしたりお菓子を食べたりたくさんの思い出ができました。

最後にこれからの日本は火力発電を抑えながらも、原子力発電の活用を力を入れて取り組むべきだと思います。福島第一原子力発電所の事故から10年以上の月日がたっている今、過去にとらわれすぎず、未来に挑戦する一歩を踏み出すべきです。そうすれば、より発達した日本になると私は考えます。

また、研修全体を通して培ったものを今後の自分の将来に役立てていこうと思いました。私は将来、英語でのコミュニケーションができる仕事に就きたいと考えています。研修本来の目的であるエネルギーとは関係性が薄いですが、世界を知るという面では私にとってこの研修はとても貴重な機会になりました。

そして、改めて感謝することの大切さを実感させられました。資料作成を手伝ってくださった先生方、不安な時に元気づけてくれた友人、引率してくださった大人の方々、一緒に楽しい思い出を作ってくれた高校生みんな、何よりこの研修に参加したいといったとき私の夢を応援してくれた家族には感謝してもしきれません。この研修が無事に終わったのは、今まで支えてくださった皆様のおかげです。貴重な経験を生かして自分自身のさらなるレベルアップにつなげられるよう頑張りたいと思います。長い期間、支えてくださりありがとうございました。

